

* 研究授業からの学び *

R4.12.5

No.7

文責 新玉

令和4年 11月15日(火)
西土佐小学校 第5学年 総合的な学習の時間 岩村 悠雅 教諭
単元名 「おいしいき 食べてみいや 西土佐のうまいもん」全70時間
小単元2 「伝いたい!おいしい西土佐の食!」(20時間)

<単元でつきたい力>

- ・西土佐の食の良さや特徴に気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを知る。また、インタビューなどの調査活動を相手や場面に応じた方法で実施する。【知識及び技能】
- ・集めた情報を事象と比較・分類、関連付けし、西土佐の食を活性化する取り組みを考えるために整理している。【思考力、判断力、表現力等】
- ・地域との関わりを通して、自分でできることを見つけ、友達と協力しながら取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

自分たちが西土佐の特産物について学んだことを観光客にどうやって発信するのか、発信の仕方を吟味することができる。

本時の評価規準

思考ツールを使って意見を述べたり、友達の意見も踏まえたうえで、自分たちの発信の仕方について検討したりしている。【思】

本時の情報活用能力

考えるための技法を適切に選択・活用し、情報を整理する。

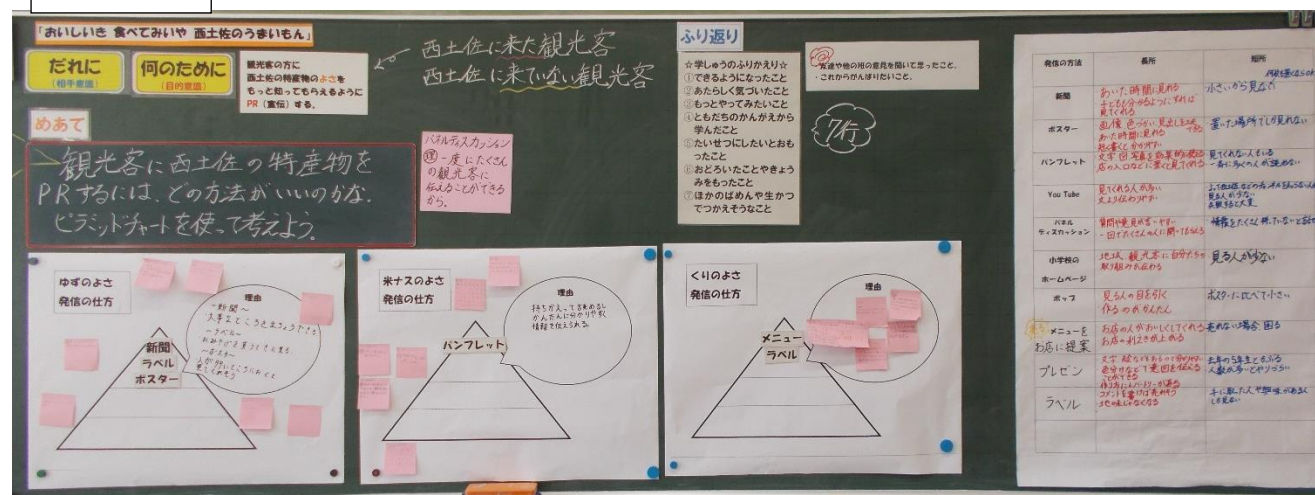
本時の授業風景

西土佐に来た観光客には、パンフレットなどの手にとって見れるもので発信しよう。



特産物のよさを観光客に伝えるためには、料理の販売とラベルで発信すると思う。理由は、よさを伝えるためには、おいしさを知ってもらうことが効果的だから料理の販売がいいと思う。また、商品にラベルを貼ると効果がより高まると思う。

本時の板書



研究協議より(抜粋)

授業者より

- ほとんどの児童が活発に話し合い、今まで調べてきたことを根拠にグループ内で意見を伝えることができていた。
- 相手意識をおさえることが弱く、話し合いの内容と合わない意見を出す子どもがいた。
- 主体的でなく、やらされ感のある子どもがおり、課題意識をもたせることができていなかった。

参観者より

- グループ協議では活発な話し合いが行われ、理由づけした意見交換ができていた。
- 思考や活動する手立てとなる発信方法(長所や短所)やシンキングブック、ピラミッドチャートの用紙など準備がよかった。
- 主体的に考えていない子どもがいた。伝えたいという思いを持っていたのか。この1時間で成長することができたか。
- 伝わりやすいと考えた説得力、根拠のある理由を深めるために、「なぜ?どこから?」等、切り返しや問い返しが大事。
- 地域の人の思いを根拠としている子どもがいなかった。「自分たちの思いだけでよかったのか」と問いかけるとよかったのではないか。
- 活動の前に、「相手に思いを伝えられるもの」「地域の人の思いを伝えられるもの」という視点を明確にすることが必要。
- これまでの成果物等を活用して、発信方法を吟味するとよい。
- 自分の意見は持っていたが、友達の話をつなげたり比べたりできれば、もっと活発な話し合いになる。
- 付箋を使うより、タブレットを活用することもできたのではないか。

指導主事より

- ・相手意識が弱かった。「人の思い」に着目させると相手意識をもたせることができたのではないか。
- ・課題意識をもたせることが大切。もっと「なぜピラミッドか」「なぜあげるのか」を子どもと共通認識し、やらされ感を軽減する。
- ・普段から思考ツールを使うことが、本時の資質・能力につながる。
- ・どの発信方法をあげればいいのか、子どもが悩む場の設定が大事。
- ・シンキングブック等を根拠にしながら、教師の意図的な働きかけで、蓄積した情報を活用していく。
- ・ピラミッドチャートの一番上に2つ3つと意見があがるのはいいのか。1つにしぼらせることで、もっと悩ませることができた。
- ・自分が変容したところを自覚することができるような振り返りを行う。
- ・これから5年生がやるから価値があるものを考えていく。西土佐のもの(地域のものよさ、アピール)をどんどん子どもと考える。

授業者のリフレクションより

- ・児童から出た意見に対してあまり切り返しの発問をできていなかったため、意見に深まりがなく、児童同士の意見のやり取りも少なかった。
- ・本時の活動の目的意識の持たせ方が弱く、主体的に活動に参加できていない児童がいたため、課題意識や目的意識をしっかりと導入でおさえることが必要。

☆これから取り組んでいきたいこと

- * 児童同士の意見のやり取りが深まるよう、切り返しの発問をする。
- * 毎時間単元の目的・相手意識をおさえ、それぞれの時間の活動の目的もおさえ、主体的な学習になるようにする。